

目次	01 歴らぼ通信編集部からのお便り	04 授業紹介	06 職員紹介
	02 歴らぼ活動報告	05 ゼミ活動紹介	07 教員の執筆した著書
	03 先生方による近況報告		08 甲南の文化遺産

01 歴らぼ通信編集部からのお便り

高田先生を知る。

歴らぼ通信編集部では新しく赴任された高田先生にインタビューしました。高田先生のご専門はイギリス福祉史という分野です。先生がこの分野を選んだのは、幼少期の体験と19世紀の美術評論家であるジョン・ラスキンの「生なくして富は存在しない」という言葉が根底にあるからとのことでした。研究室は趣味の一つである雑貨屋巡りで手に入れた品々が溢れています。インタビューではティッシュケースから始まって万年筆に至るまで、こだわりの品々を見せて頂き、さらにとても美味しい紅茶を振舞って頂きました。これらのこだわりは「本物を身体に入れる」という強い考えから来ているそうです。先生の研究室を訪れると、こうしたコーヒーや紅茶とともに様々なお話が伺えます。皆さんも是非一度訪ねてみてはいかがでしょうか。(3回生・藤本悠華/4回生・橋本文月)



中町先生の意外な趣味



歴らぼ通信編集部では中町先生にインタビューを行い、最近の関心事についてお話をうかがいました。中町先生は「興味のある分野が二つに分かれてしまう。」と話されました。イスラムに関する古いことや新しいことのみならず、最近では東洋史の枠を越えて西洋史にまで関心が及んでいるそうです。趣味はジャズ鑑賞とサクソフーンの演奏、そして、私生活で最も大切なものはお子さんと過ごす時間だそうです。中町先生からのメッセージは「10号館の外でも、見つけたらいつでも声をかけてください。」でしたので、皆さん、中町先生を見つけて色々たずねてみましょう。(3回生・藤本悠華)

佐藤泰弘先生による古代史班や、東谷先生・木股先生による近代文学講座も、新しく活動をはじめました。

「地図に描かれた神戸大空襲」展開催

歴らぼ地図班では、去年より歴史文化学科に所蔵される AMS(旧米国陸軍地図局)作成の西日本の地図を整理しています。今年度は地図 1枚毎の調書を作成し終えた後、成果を「地図に描かれた神戸大空襲」と題した展示(2014年7月22日～9月30日、於:図書館エントランス)として発表しました。展示の準備として、メンバーで展示プランの検討、キャプションの執筆、パネルの作成を行いました。展示では実際の資料(地図、文献)や模型も展示しました。現在は展示内容をまとめたリーフレットの作成中です。(3回生・坂本恭介)



アラビア語勉強会



アラビア語勉強会では、アラブ中世史を専門とする中町先生の指導のもとアラビア語の基礎を学んでいます。私達の最終目標は「アナと雪の女王」のテーマソングのアラビア語版を理解することです。2014年度の前期に名詞、形容詞を使った文章や疑問文の作り方を学び、現在は動詞の活用を学んでいます。勉強会は配布資料と板書で行っています。今のところ参加人数は6人程度(2回～4回)です。勉強会は毎週金曜日の昼休みに、昼食をとりながら中町先生の研究室で行われています。興味のある人は気軽に覗きにきてください！(3回生・森本あかね)

03 先生方の近況報告

スイス通信

9月3日、スイス・mendrijo市のイタリア・スイス大学へ行ってきました。ここに「アルプス史研究室」という個性的な歴史研究室があり、アルプスと山の歴史に関する様々な学会や出版、教育を行っているのです。研究室の皆さんに暖かく迎えていただき(日本茶のおもてなしに感激!)研究協力の話し合いをしました。長時間の丁寧な議論に深く感謝。「山のまち」からつながり発信する歴史の素敵なモデルですね。(佐藤公美)

※右の写真はイタリアからスイスへの車窓風景



ラオス滞在記



この9月、ラオスは雨がよく降った。ドカ降りが何時間も続くななんてことが何度かあった。北の方の村に調査に行ったとき、雨が降った翌日などは道路沿いに崩壊箇所がいくつもできており、難儀させられた。ところがびっくりしたのは、すぐにどこからかブルドーザーが出てきて、土砂をのけていくのである。昔だったら何時間も待たされて、もう今日の仕事は中止ということになっただろう。こういったところにラオスも変わったなあということを感じさせられた。(中辻 享)



地理学民俗学資料研究Ⅱ（担当：中辻先生）



私達は、授業の一環として、5月18日に兵庫県川西市黒川地区で、森林ボランティア団体「菊炭友の会」の活動に参加しました。菊炭友の会では、クヌギの植林等を通じて里山を整備しています。その目的は森林の生物多様性を生み出すことだそうです。今回のフィールドワークを通じて、かつて薪炭等の燃料を生産することで人々の暮らしを支えてきた里山の現状を知るとともに、里山と人々の暮らしの中での今後の課題を発見することが出来ました。（3回生・大賀史織）



教育実習体験記



私は、6月の3週間、母校の市川町立鶴居中学校で教育実習を行いました。とてもアットホームな学校で、生徒達は実習生の私をすぐに受け入れてくれました。実習で担当した授業が生徒達に伝わっているかどうか不安に感じ、担当の先生に相談したり、他の先生の授業を見学したりしました。それは大学とは違って実践的に学ぶというものでした。最後の研究授業では、生徒達がたくさん発表してくれたこともあり、とても満足のいく授業が出来ました。実習は3週間という短い期間でしたが、とても貴重な体験となり、より一層教師になりたいと思う機会となりました。（4回生・谷川香菜）

05 ゼミ活動紹介

鎌倉旅行 佐藤泰弘ゼミ

佐藤ゼミでは、8月23～24日の一泊二日で鎌倉に行ってきました！鎌倉では佐藤先生の寺院の解説を聞きながら巡りました。1日目は極楽寺、長谷寺、鎌倉大仏で有名な高徳院に行きました。夜は江の島の旅館に宿泊し、豪華な料理を楽しみました。2日目は源頼朝の墓、護良親王の墓、鶴岡天満宮、建長寺に行きました。2日間の限られた時間の中で鎌倉の歴史を感じ取ることでできたゼミ旅行となりました。（3回生・大賀史織）



蕎麦打ち体験 鳴海ゼミ



鳴海ゼミでは、日本の伝統文化を体験するために蕎麦打ちを今年から始めました。このゼミに入れば蕎麦が打てるようになるのが目標です。私以外は全員が全くの未経験者でしたので、事前に作り方の勉強会も開きました。手軽に出来ると思い取り組み始めましたが、実際に作ると簡単にはいきません。特に水の量の調節が難しくて全然まとまらず、最初に作った蕎麦は上手に出来たとは言えないものでした。それでもみんなで2回、3回と作っていくうちに上手く出来るようになり、最後に作った蕎麦はみんな満足する内容でした。普段体験できない蕎麦打ちが出来たこと、また、みんなで作り上げる楽しさを味わえたことが良かったです。（3回生・上山瑞季）

歴史文化学科 共同図書室

私は、2013年3月から歴史文化学科の共同図書室に勤めています。主な仕事は、学科の図書の管理と図書室を利用する学生の対応です。この欄では図書室から見た学生の様子を紹介しようと思います。ここには様々な学生が訪れます。本を借りたり読んだりする人は勿論、静かに考えたり、友達と待ち合わせたり、はたまた人生相談？に来たりと。多くの学生が落ち着く場所と感じているようで嬉しく思います。今年は歴らぼに集う学生も増えて、ますます活気付いたように感じます。個性豊かで熱心な学生達と接するときは仕事をしていて楽しいと感じる瞬間の一つです。まだこの図書室に来てない人は是非一度足を運んで下さいね！（本島香苗）



07 教員の執筆した著書

『地域社会における「藩」の刻印－津・伊賀上野と藤堂藩』

S: 東谷先生、夏休みに『地域社会における「藩」の刻印－津・伊賀上野と藤堂藩』（藤田達生監修、三重大学歴史研究会編、清文堂出版）が刊行されたんですね。2009年の『藤堂藩の研究 論考編』（藤田達生監修、三重大学歴史研究会編、清文堂出版）、2012年の『伊賀市史』第5巻資料編・近世に引き続いて、また伊賀や藤堂藩に関する本ですね。

T: 戦国武将の藤堂高虎が初代藩主の藩だね。高虎は、伊賀・伊勢両国（現三重県）に領地をもらった大名で、築城の名手として知られていて、大坂城は彼が設計したんだ。家康の懐刀として朝廷と交渉するなど、とても有能な政治家なんだよ。

S: たしか高虎の果たした役割について、新説を出されたとか。

T: うん、2009年の本と今年の本に書いているよ。

S: どんな説かかいつまんで聞きたいけど、「勉強のため自分で読もう」と言われそうなので、話を変えますね。2012年の本では何を書いているのですか？

T: 藤堂藩に関する江戸時代の史料を収録した本だよ。作り始めてから8年くらいかかったかな。新聞にも取り上げられ、話題になったから覚えている人もいると思うけど。

S: きっと忍者のことも載ってますよね。伊賀ということは。

T: 幕末に来航した異国船に忍び込んで探索したと言われてはいるけど、実際は幕府の役人が「忍者」を連れて案内したことが分かった。忍術を駆使していたわけじゃないんだよ。

S: 実際は映画とかと全く違うんだ。はい、自分で読みますね。でもまずはネットで検索してみます。・・・え？先生、先生がYouTubeで本の内容を！

（東谷 智）



08 甲南の文化遺産 02

甲南大学図書館

本学図書館棟は、あまたの大学や公共の図書館を手がけた鬼頭梓（1926-2008）建築設計事務所の設計により、総工費約14億をかけて1978年に竣工しました。「レンガをあしらった落ち着いた外観の中にも、学園らしい若々しさと明るさを巧みに表現している」として1980年の第3回神戸市建築文化賞を受賞し、1993年には神戸建築百選の一つにも選ばれています。阪神大震災を乗り越え耐震補強工事をおえた図書館は、現在、50余万冊の蔵書を擁し、年間延べ30万人近くの学生・教職員等に利用されています。（稲田清一）

※ 右は完成当時の写真です



編集: 藤本悠華、久世成美、鳴海邦匡 発行: 甲南大学文学部歴史文化学科 発行日: 2014年10月24日
連絡先: 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1、078-435-2874 (学科事務)